

韓国の「文化芸術教育政策」における新たな学校舞踊教育 金保延

韓国における学校舞踊教育は、2005年から施行された「文化芸術教育政策」の学校文化芸術教育によって既存の舞踊教育に加え、舞踊の芸術性を活かす多様な舞踊教育が教育課程で行われるようになった。いわば、学校舞踊教育の新たな時代が開かれ、従来の舞踊教育における問題改善及び舞踊に対する認識変化など飛躍的な発展が成し遂げられた。

これまでも学校における舞踊教育はあったにもかかわらず、なぜ学校文化芸術教育における舞踊教育の発展が可能になったのであろうか。それは、従来とは違い、教育を人間がより善く生きるための働きかけであると考えた上（村井、1985）、なぜ学校で芸術を教えるのかという教育の目的を明らかにした従来とは違う捉え方から芸術を扱っているからである。

韓国は、グローバル時代に対応するために自分らしさの発揮を強調しながらも、自分とは異なる他人の特性をありのまま尊重する多様性への尊重を求めている。そのために、政府が打ち出したのが「文化芸術教育政策」の学校と社会における文化芸術教育である。一見すると、国家の競争力がその目的になっている現実主義的国策のように見えるかもしれない。しかし、中身をよくみるとその根本には「人間の表現欲求から生まれた芸術を、常により善くなるようにする人間がさらに善くなれるように援助する教育の実践として行う」という考えが存在している。これは、教育の本来目的とも一致する内容であり、その意味で「文化芸術教育政策」は、教育の一型として行われている人間主義の教育であると言える。さらに、文化芸術教育は、一回の芸術経験で終始するような教育やテクニックに集中した教育ではなく、全ての生徒が芸術教育を通じより善くなることを目指している。そのために求められることが、芸術分野の特性をよく理解しそれを最大に活かせる専門芸術家であり、政府は芸術講師を選抜し全国の学校に派遣する芸術講師支援事業まで施行している。グローバル時代である現在、通常は、IT教育や外国語の教育の方が注目されるはずであるが、学校教育課程における芸術教育を強調し、教育現場における新たな実践を志向する「文化芸術教育政策」は注目すべきであると考えられる。

本発表では、学校舞踊教育の新たな時代を開いた「文化芸術教育政策」における舞踊教育の捉え方について検討し、舞踊を教えることの意味と目的について教育学的に考察することを目的とする。